

事例7

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代、抗血栓療法中の患者。
- ・ 心臓手術後、右胸水貯留に対し、心臓血管外科で胸腔穿刺を実施。
- ・ 事前にX線画像、穿刺直前に超音波画像で胸水の貯留と周辺臓器を確認。穿刺部位は、右肋間を選択。
- ・ 試験穿刺で胸水（性状不明）を確認。本穿刺で淡血性の排液を約 900 mL 吸引した。穿刺から約 8 時間後に嘔気、血圧低下、呼吸促迫を認めた。超音波検査で右胸水貯留を確認、胸腔ドレナージを実施し、約 1,000 mL の血性排液を認め、翌日死亡。
- ・ 死因は、肋間動脈損傷疑いによる出血性ショック。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖 無。